



TITLE:

備後の名[勝]下帝釋峽

AUTHOR(S):

吉野, 益見

---

CITATION:

吉野, 益見. 備後の名[勝]下帝釋峽. 地球 1934, 21(6): 455-464

ISSUE DATE:

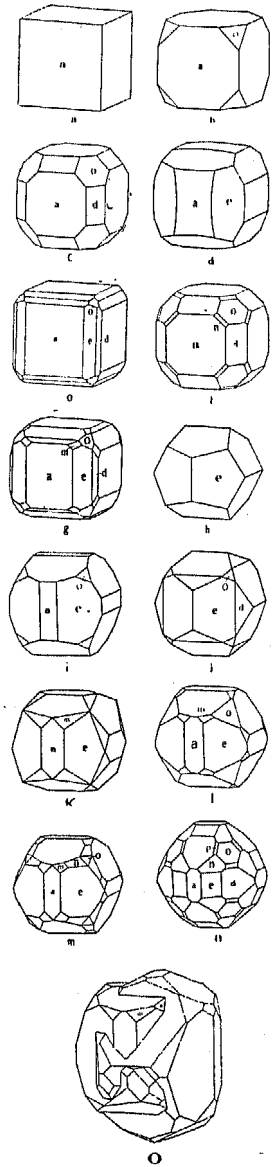
1934-06-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184301>

RIGHT:

第二圖



雙晶はeを主面とした結晶に最も普通に見られ、oを雙晶面とした透入雙晶である。(第二圖o)

終りに御校閲を賜つた松原先生、標本を貸與

され且種々御教示に與つた中村先生及び竹原平一氏に深く感謝の意を表する。

(昭和九年三月廿三日)

## 備後の名勝下帝釋峽

吉野益見

### 目次

概説 一、地形 二、地質

備後の名勝下帝釋峽

### 各説

一、永新の曲峽【イ、前半の景  
ロ、後半の景

翌

五七

- 二、永新の直峽イ、北半  
ロ、南半
- 三、櫻尾の曲峽

參考圖書

## 概説

### 一、地 形

帝釋峽は備後の北帝釋臺を流るゝ帝釋川（流程二八浬）の谷の稱名にて、比婆神石兩郡に屬し、概ね古生代石灰岩より成立す。此峽は帝釋街及堰堤に依て上中下の三域に分つ。其中域は既に大正十二年名勝に指定され帝釋地方及神龍湖の二區（全長一二浬）に分つ、其下域は半に於て、南西流入の草木川を合せ東城川に注ぐ、其上半部即ち堰堤和宗間は兩岸削立の深峽を形成す。これ所謂下帝釋峽にて、神石郡永渡新坂兩村に屬し名勝區に對峙す。下帝釋峽は半途西より來る岩屋谷川を合せ、後者も亦其下流に一峽谷を成す。これ等は千古自然の大峽谷にて、懸崖圓峯尖峯深潭奔瀾及洞窟等の秀景至る所に續

出して應接に遑なく、帝釋地方及神龍湖畔の勝景を凌駕するものありて帝釋峽中殊に重要な地位を占む。此峽は堰堤下の峽底標高三三〇米に起り、和宗の峽底二九〇米に終る、其差高四〇米に過ぎざるも、其長さ五・二五〇浬（一里十二町）に達す。これを三部に分ち、上部を永新の曲峽（永新は永渡新坂村の略）、中部を永新の直峽、下部を櫻尾の曲峽と分稱す。兩曲の間に一直を挟むこれ此峽の一特色なり（名稱區の帝釋峽については廣島縣史蹟名勝天然記念物調査報告書及地理教材研究第五第七輯に記述す）。

### 二、地 質

此峽の左右兩岸は概ね白色石灰岩の斷崖絶壁をなし、和宗方面に於て僅に玢岩の噴出を見るに過ぎず。永新曲峽東方の連嶺に永新アルプスあり、其東方に（新坂）六個のドリーネ及洞窟あり。又此曲峽北方の立石山方面（永渡）には十二個のドリーネあり。又此曲峽南方の父原馬乗場・弓場良和田（永渡）等には洞窟及ドリーネの存す

# 第一圖 下帝釋峽圖

備後の名勝下帝釋峽



るもの十有餘に達す。此等ドリーネに注ぐ水及洞窟の水は悉く此曲峽に流出す。次に永新直峽には左岸に近く須床猿畑のドリーネあり、又峽中には數個の洞窟ありて天川洞最も著る。次に櫻尾曲峽には洞窟及ドリーネの存するもの少なし。要之此峽は最下部少許の外は悉く石灰岩にて組成せられ、兩岸に接する臺地上幾多ドリーネの地下水は此峽に對し多くの洞窟を形成し地下美伏在の一特色を有す。尙雨季にはドリーネ及洞窟を通じて峽水の増加著しと云ふ。

### 各 説

#### 一、永新の曲峽

これ堰堤直下半橢圓の屈曲部にて、其長さ二三〇〇米(二十一町)あり。此曲峽の方向を通覽するに、其前半は北五〇度東—南五〇度西に、其後半は北六〇度西—南六〇度東に走る。堰堤附近の岩石が北三〇度東の走向を示すものあるは前半の走向に略々一致するを見る。此峽は詳に觀察すれば小屈曲夥多なり、これ岩石層面の

相交るものあり流水此罅隙の弱線を浸蝕して此峽流を形成せるに依る。茲に河床及峽壁の勝景續出す。

#### イ、前半の景

**堰堤** こは山陽中央水力電氣會社が峽谷を堰止めて水準を高め水電を起せし設備にて、幅一二・七米の最狭河底を堰く、其幅四五・五米、頂幅六・四米、高さ五四・五米(尙六米増築の計畫)、こゝに神龍湖をなす。大鐵管三個の中其二を使用して堰堤外側の貯水槽に送水し、更にこゝより五・六籽の隧道を経て、落合發電所に送り四千キロワット發電の用に供す。此堰堤上に放眸せば、湖上に於ける客船の往來と艶麗なる狗賓嶽の秀峰とを望み、又堰堤直下の玻璃淵は低く暗く遙に狹窄たる深峽の裡に横り、相對の玻璃嶽の大險崖は近く矗立墜落の雄姿を表はす。かゝる崇高悽愴偉大の壯觀は實に全峽中の第一位を占む。

**玻璃嶽** 前者に接し左岸に聳立す、高さ百餘

米幅之に適ふ、白色の大岩壁は絶巔に松柏を戴き水涯に近く僅に緑樹を見、又壁面には眞柏點在し廣大雄姿の白壁美を裝飾す。

**玻璃淵** 前者に接し略々矩形をなす、幽邃紺碧深さ十二米に達し、鰻溯流の極限をなす、所謂斷魚淵なり。此附近鯛狀石灰岩及紡錘蟲化石の存在を見る。

**堰堤嶽** 右岸屈折部に屹立す。高さ百米幅廣く之に倍す。白壁の頂は亦緑樹茂り、其面には所々に罅隙を縫ふ緑樹帯存し、流水は淙々其脚を洗ふ。

**セナコスリ淵** 前者に次ぎ右岸に偏在す。岩壁の水に接する所浸蝕を受け深く彎入の奇態を呈すること五五米。岩壁の緑樹は森々鬱蒼淵上に投影し頗る幽玄を極む。

**釣鐘岩** 右岸屈曲部に峙立す、其形釣鐘に似たり故に名づく。高さ三五米、尖頭及尖岩は龍頭に比すべし。岩面には罅隙を充たす眞柏其他の緑樹並に風水浸蝕の奇態存し、更によく其容姿

を飾る。此附近海百合石灰岩存在す。

## 第二圖 釣鐘岩（右方）



**宇那田富士** 左岸の屈曲部に富士の容姿を表す。緑樹よく繁茂するも所々に白岩の露出ありて一般の景趣を加ふ。高さ一八〇米に達す。

**扇場嶽** 前者に續き亦屈曲部に聳ゆる尖峯にて高さ百餘米あり尖頭緑樹を冠し、こゝより垂直の大裂罅は此峯の中央を縦走して清淵に入る

の奇觀を呈す。綠樹は白壁の所々を點綴して美觀を添ふ。

**扇場淵** 前者に接する清淵、長さ五五米に達す、水涯は弧狀をなし、こゝに終る扇場嶽の小裂罅十數個は流水の浸蝕を受けて孔を穿ち奇態を呈す。

**立石城趾**（小岩城趾） 前者を隔つ少許の右岸に在り、大岩壁の頂上平坦地これなり、こを中心とし數個の樋（側谷）あり、臺地と峽底間の往來に便なり、軍事の用に供せしか、城趾より約一〇〇米を隔て絶壁の上に殿様屋敷と稱するものあり。されど此等史蹟の明かならざるを憾む。

**丸淵** 前者より少許にあり。形態圓く清澄鑑むべし。

**イダ淵** 前者を去る少許にあり。イダ多きにより名づく、長さ二七米、幅七米。

**六郎谷嶽** 前者より少許の左岸に峙つ尖峯、其雄姿方に扇場嶽に髣髴たり。

**六郎谷淵** 前者に接す、長さ五五米、幅九米、

深十米。水涯亦彎入、青藍の長淵よく水泳に適す、涯上の讓葉檜等淵上を覆ひて幽邃を加ふ、鰻多し。

**黒瀬淵** 前者を隔つ少許の右岸に在り。清水溜々奔騰し來り紺碧渦卷く。此淵上の平坦地に所謂殿様屋敷存す。

**清澤淵** 前者より少許の左岸に偏在す。水涯は弧狀をなし小孔を穿ち流水浸蝕の跡を認む。長さ一一〇米、幅一三米、清水漫々濺々潭をなす。涯上には白色奇岩の墜落狀を呈するもの、樋狀をなすものあり、綠樹森々亦其上を飾り參差枝を交へて淵上に投影し、滿目清淨靜寂の幽淵たり。されば冬季鴨來の群をなすと云ふ。此水更に右岸に轉流し溜々淙々奔瀾をなす。之を清澤尻と名づく。

**立石嶽** 前者を去る少許の右岸に峙立する尖峯。風丰鋭く立石の如し故に名づく。

**水落** 右岸背後の臺地より來る流水の落下するものにて側面瀑の一なり、此流路に七瀧懸り

こは其最終のものに屬す。旱天時には水を見ざることあるも、降雨時の壯觀は白龍の躍るに似たりと云ふ、其瀑水は長さ一一〇米深さ五・五米の所謂水落淵に注ぐ。

**戸宇の平城陞** 右岸の尖峰にて立石峰と相並び其中間の水落にて隔つ。其上半は綠樹濃かに下半は岩壁白く表れ、其面に數個の洞窟ありて一變化を與ふ、こは立石方面存在のドリーネに連續す。水涯に接し綠樹散點し水涯の彎入及穿孔と相待ち水落淵に對し一段の風致を添ふ、岩壁の下部に近く河段丘存し昔時河道の跡を示すものあり。全高百餘米、雄偉の風采を呈す。城陞は頂上の平坦地にあるも史實未だ明かならず。

**雨乞淵** 右岸に偏在す、洞窟湧出の清水は滾々として淵水に注ぎ來り頗る水量を加ふ。一旦岩其縁邊に峙立し岩上には綠樹茂り淵水と相映じ更に一段の清楚を増す。此淵直上の尖峰を雨乞嶽と云ふ、是亦綠白の美觀を有す。

**面拔** 前者を隔つる少許の右岸に在り、こは

側谷の上に懸る二等邊三角形の大石門たり、其底邊九米、其高さ及長さ共に三六米に達し、其石門上には通路あり、實に雄姿壯大の勝景なり帝釋峽には上に唐門あり、下に此石門あり兩々相峙す。此成因は唐門と共に背後より石灰岩の裂罅を浸蝕せし流水の作用に基くものなり。尙此石門の下に洞窟あり入口三個を有す。

### 霧降瀧

前者より少許、背後高臺の溪流が右

### 第三圖 霧降瀧





岸に濺ぐ所に懸る。樹林の中布引の白瀑高く懸り、瀑水懸崖に觸れて飛散し、或は一激して雨となり、再激して霧となる、故に此名あり。灌壺は充分發達せず、幼年期側面瀑の好例なり。此瀑は水落と同じく旱天時水を見ざることあるも、水量多き時は激流奮躍水聲喧騰頗る壯觀を極むと云ふ。此瀑を隔つ少許左岸の突出所を長鼻と稱す。

**烏が樋淵** 前者より少許の左岸に在り。水涯の岩脚及其裂罅線共に流水に溶解され、大彎入及數個圓形の奇態をなし殊に人目を惹くこと扇場淵等に髣髴たり。

**呼び岩** 前者西南の高所に在る岩塊なり。春花秋紅の候、行厨を携へ茲に遊び四隣の秀景を賞し歸るを忘るゝもの多く、實に觀望の一大中心なり。

### 口、後半の景

**夫婦嶽** 烏が樋淵を去る少許の右岸に二個の巨岩横はる。これを夫婦岩と名づく。此上に聳ゆ

るものを夫婦嶽といふ。上下の綠樹は中部の白壁を包み裝容を表はす。

**荒瀬洞窟** 前者を去る少許の右岸に在り、大石灰岩下の冷水滔々川をなして流出す。數年前調査のため岩を穿ちて洞口を大にし其内に入る流水中二〇米を進めば一段高くなり、尙十米進み得と。地方人士はこれ永渡村の恩田市場神原方面のドリーネと相通ずる地下水の流水口たるを説く、それ或は然らん。然らば恩田との直線距離は一軒を超ゆれば、其規模の長大にして此峽中稀有のものなるを思はしむ。尙開鑿探査の必要を認む。

**花面ドリーネ** 前者の直上にあり、所謂ヤマ(Yama)にて口徑短一米、長一米半に過ぎざるも深さは十九米に達す、峽中稀有の井狀ドリーネに屬す。

**花面洞窟** 前者を去る數百米の險崖に存在す。洞道七十米、支洞十五米に過ぎざるも、洞中悉く白色洋館新築の美觀を呈し、大天井鐘乳

石傘下の狀は實に美觀の眞粹なり。

**花面イタ淵** 前者より少許の左岸に在り。水涯の彎入甚しく且穿孔の大なるもの多し、淵上の巨岩は裂罅により奇形を呈するもの、或は墜落の狀を呈するものあり、又其上に茂る綠樹亦淵面を覆ふて暗し。イタの群集により名づく、長さ五五米。

**梅木淵** 前者を隔つ少許の左岸大岩盤の中に在り。弧狀をなす、長さ三六米、幅其半、深さ三米。

**花面狗竇嶽** 前者を去る少許左岸に聳ゆる秀峰。上部は綠樹を裝ひ、下部は白壁を裸出するも所々柏・つげ等の點綴ありて綠白對應壯麗の容姿を示し、堰堤狗竇嶽の勝景に髣髴し、畫客の愛好措く能はざる所のものなり。尙花面の名稱は狹義には堰堤下右岸の花面をのみ指稱するも、之を廣義に擴張し右岸の永野地及左岸の三坂地をも總稱す。

**なが淵** 前者に近く左岸にあり、左岸の岩壁

には裂罅多く並列し樹木は之を縫ふ。裂罅は水

第四圖  
なが淵の長さ



涯に於て浸蝕のため洞窟形の孔十個を形成し一大奇觀を呈す。

**ソウズケ淵** 前者に近く右岸に在り、大岩盤の中に穿たる、其形富士に似たり、和田西のド

リーネに流入する水は此淵に流出す。

滑嶽 前者に接し右岸に在り、殆んど直立の白壁なるも上下に僅に樹木を見る。洞窟の存在は一變化を與ふ。之に接する左岸の淵を滑淵と名づく。

土原嶽(父原嶽) 前者より少許左岸の屈曲部にある直立の大小二岩壁が一の縦の凹線にて相交はる峻峰にて、此二岩壁は各々百餘米の高さを有するも、其幅小は二〇米、大は二〇〇米を超ゆ。大岩壁の縦半面は上部凸、下部凹をなし、

所々に裂罅穴あり、稜々斧を以て削るが如きあり。眞柏・つげはよく之等を點綴して風致を整ふ。他の縦半面に於ては、上凹中凸下凹の三様を表はし、上位には緑樹覆ひ巨岩轉下せんとするものあり、中位は眞柏の裂罅を縫ふあり、下位は亦緑樹の生茂を見る。此等岩面は一幅の活畫を示し景趣を新にす。此峻峰の偉大崇高は實に全峽中稀有の大勝景にて觀客の嘆稱措く能はざるものなり。

(未完)

## 酪農工業……伊萬里煉乳工場

### 白尾榮

一、佐賀縣西北部なる一小漁港としての伊萬里が存在してゐる。ここから東へいくともないところ森永製菓會社の一工場としての伊萬里煉

乳工場がある。思ひつづくること三年間、計らずも本年二月十四日ここを參觀するの機會を得たのである。そしてこの煉乳方面―即ち酪農方